

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会 (メールボックス)
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



◆ 目 次 ◆
○活動報告
○お知らせ

♪ホームページ折々に更新中!
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

UNESCO加盟70周年記念事業

第77回日本ユネスコ運動 全国大会in大阪

いのち輝く持続可能な世界を未来へ繋ぐ
～大阪から世界へのメッセージ～



12月5日(日)、「第77回日本ユネスコ運動全国大会 in 大阪」が桃山学院教育大学エレノアホールを会場として開催されました。今大会は、日本がユネスコに加盟して70周年に当たる記念大会として「いのち輝く 持続可能な世界を未来に繋ぐ」をテーマに、会場参加とオンラインとを併用しての実施となりました。

ウィズコロナ時代を生きる私たちの未来には、さまざまな問題が待ち受けています。国際社会では、国連の提起したSDGsへの取り組みは喫緊の課題として取り組まれています。

「誰ひとり取り残さない、いのちの尊厳を基底にすえた持続可能な社会を築く」ために、民間ユネスコ活動を取り組む私たちの求められているものは何かを、本大会で私たち一人ひとりが考え、互いに学び合い、つながり合いの場となることを願い、大会を開催しました。



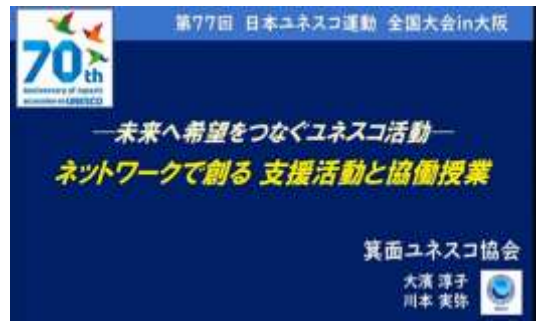
■主催者挨拶
公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
会長 佐藤美樹氏



■来賓挨拶
桃山学院教育大学
学長 中西正人氏

● 箕面ユネスコ事例発表

発表者（大濱淳子さん&川本美弥さん）



♪ 配信を覗かれた方からの感想

- ★とても内容のある大会でした。とりわけ箕面ユネスコ協会の事例発表はすごいと感嘆しています。（北海道）
- ★若い人の活躍を感じる大会で、中身の濃い内容で大変勉強になりました。（東京）
- ★素晴らしい内容で、感激しました。これからは主体性をもって地域で実践していきます。（和歌山）

● 大会を支えた 箕面ユネスコ協会 スタッフメンバー



事例発表はもちろんですが、上の写真のように、会場案内、受付、司会、運営確認などにも箕面ユネスコメンバーががんばりました。しんどかったけど大会成功に役立て良かった、がスタッフの感想です。

司会を担当した 小藪 優太さんは、箕面ユネスコで一番若いメンバーで、高校1年生です。岡山県在住で、箕面ユネスコが倉敷市真備町ボランティアで出会い、箕面ユネスコに加入していただきました。会場整備を担当した人たちは、箕面ユネスココースのメンバーです。

みなさん、おつかれさまでした。ありがとうございました。

●箕面市立豊川北小学校 5年生●

出会って学ぼう／世界と出会おう編 ① ② ③



世界にある識字課題について知るとともに、自分自身の環境を振り返ったり、課題解決に向けて小さな一歩を踏み出したりしてほしい…子どもたちの成長への願いを先生方と共有しながら、10月から11月にかけて3回シリーズでお話しさせていただきました。



マララさんの演説動画を紹介し、教育の大切さについてクイズを交えながら考えてもらいました



カンボジアやネパールでのボランティア体験で気づいたことや学びを伝えました



ネパール留学生ルペシュさんに、ふるさとの村の生活や教育の環境を話して頂きました

♪学ぶことはものすごく大切だと思った。学ぶことであらそうことがなくせると思った。これからはしっかり学んでいきたいと思った。

♪世界で学校に通えない人はお金がないや学校自体がないだけだと思ったけど、いろんな理由があってびっくりした。学校に行く理由をあらためて考えるといろいろあることがわかった。

♪ネパールと日本は全然ちがう。でも、すごくおもしろかった。…

コロナ対策で3回とも体育館で床に座っての出会いとなりましたが、いつも一生懸命聞いてくれた子どもたちに感謝します。

●箕面市立萱野小学校 2年生●

えがおでつながる大きくせん



1995年、阪神淡路大震災の甚大な被害をうけた夏、天国に旅立った加藤はるかさんが住んでいた空き地に咲いたひまわり。その花が、はるかさんの供養と震災の生き証人として育て語りつがれてきた「はるかのひまわり」です。

この春に、はるかのひまわりを育て続けている大阪市立鶴見橋中学校からお預かりした種を2年生の子どもたちに届けました。一生懸命育てられたひまわりは、たくさんの種をつけました。ひまわりを通して、たくさんの学びを得ている子どもたちです。



鶴見橋中学校へのビデオレターをお預かりし届けました。一生懸命育てた様子やお姉さんお兄さんへの質問などが映されたとてもかわいいビデオでした。



東日本大震災の地にもはるかのひまわりは咲いているそうです。震災当事者として命の大切さを伝えた坂口さん。子どもたちから心のこもったお手紙が届きました。

両校とも、活動はこれからも続くそうです。また出会えること楽しみにしています。(大濱 淳子)

●「東日本大震災を忘れない」チャリティー物産展

※10月31日に箕面三平橋でNPO フェスタをしました。NPO フェスタで、東日本大震災で被災した宮城の食べ物を販売しました。気仙沼高等学校の学生が考えて作ったサバの缶詰やはらこ飯、お菓子などを売りました！ユースチームは岡山県真備町について書いた



ポスターを貼り、子どもカフェについてのチラシを配らせていただきました。私は初めて箕面ユネスコのボランティアに参加させていただいたのですが、みんな優しく、楽しくボランティアに参加できました。



お昼ご飯にはお弁当とはらこ飯をもらいました。はらこ飯を初めて食べましたがすごく美味しかったです。機会があれば食べたいです。気仙沼高等学校の学生が考えてみんなで作ったことはとてもいいことだと思います。宮城県気仙沼市のものを買って売ることによって宮城県の復興支援になっているし、来てくれた人が宮城のことを知ってもらえるのでとても良い機会だったと思いました。買いに来てくれたみなさん、ありがとうございました。(久保田 光咲)



※感染対策を徹底したなかで NPO フェスタが開催されました。緊急事態宣言が解除され、暖かい気温にも後押しされ、かやのさんぺい橋は多くの人で賑わいました。



私たちのブースに並べた東北の物産品にも多くの方の姿が・・・毎回楽しみに来てくれる方、チラッとのぞいてくれる方、サンマ缶を手に取り、「これ、朝ドラのあれ?」「そうですよ。みーちゃんが作っていたサバ缶で、そのモデルになった向洋高校の缶詰です。」という「じゃあ、ちょうだい。」と言って買ってくれた方など、物産品はひとつ売れ、ふたつ売れ、いつのまにか完売になっていました震災から 10 年、世間の記憶から少し薄れてきたのではと懸念していたところに、朝ドラで取り上げられたことは、再び震災を考えるきっかけを作ってくれました。被災地支援の物産展は、多くの思いと人と人を繋げるきっかけを作っていると信じながら、これからも続けていきたいと思えます。(花田 純子)

●いずみまちセミ参加 「なわ遊び！」

和泉市立北池田中学校で行われた「なわとび楽しもう！～苦手な子でもだいじょうぶコツ教えます！～」に参加してきました。現在、私は大学一年生です。小1年の時に、学校イベントでダブルダッチに参加したことがあり、当時の私は縄が怖くて全くできませんでした。一つの苦手分野として残っていた私にとって、今回のイベントは苦手を克服する良い機会でもありました。普通の一人縄跳びから始まり、



次に縄跳びを必ず飛べるコツを教えていただきました。「素早く縄の真ん中に入ること」、「縄一つ分が飛べる高さで飛ぶこと」、「着地したらすぐに出ること」です。その後、大縄跳び、ダブルダッチにも挑戦しました。私を含め、参加してくれ

た子どもたちもできるようになったので、良い思い出になったと思います。(水野 晴翔)

